

# 公衆衛生学

## 1 構 成 員

	平成11年3月31日現在	平成12年3月31日現在
教授	1人	1人
助教授	1人	1人
助手（うち病院籍）	2人 (0人)	2人 (0人)
大学院学生（うち他講座から）	3人 (0人)	2人 (0人)
研究生	9人	8人
外国人客員研究員	0人	0人
技官	0人	0人
その他（技術補佐員等）	1人	1人
合計	16人	14人
非常勤講師	5人	6人

## 2 教官の異動状況

- 竹内 宏一（教授）（期間中現職）  
 金森 雅夫（助教授）（期間中現職）  
 甲田 勝康（助手）（期間中現職）  
 中村 晴信（助手）（H11.11.1以降浜松医科大学助手）  
 岩重 健一（助手）（～H11.3.31浜松医科大学助手）

## 3 研究業績

	平成10年度	平成11年度
原著論文数（うち邦文のもの）	13編 (10編)	16編 (11編)
そのインパクトファクター合計	5.081	0.833
論文形式のプロシーディングズ数	2編	2編
総説数（うち邦文のもの）	2編 (2編)	3編 (2編)
そのインパクトファクター合計	0	0
著書数（うち邦文のもの）	4編 (4編)	2編 (2編)
症例報告数（うち邦文のもの）	8編 (8編)	14編 (13編)
国際学会発表数	0編	1編

### (1) 原著論文（当該教室所属の人全部に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- ① Kouda K., Ha-Kawa S.K., Tanaka Y.: Increased Technetium-99m-GSA Uptake per Hepatocyte in Rats with Administration of Dimethylnitrosamine or Hepatocyte Growth Factor. J. Nucl. Med.

39(8):1463-1467, 1998.

- ② Tsuboi H., Kouda K., Takeuchi H., Takigawa M., Masamoto Y., Takeuchi M., Ochi H.: 8-Hydroxydeoxyguanosine in urine as an index of oxidative damage to DNA in the evaluation of atopic dermatitis. Br. J. Dermatol. 138:1033-1035, 1998.
- ③ Kobayashi K., Kitajima S., Miura D., Inoue H., Ohori K., Takeuchi H. et al.: Characteristics of quantitative data in toxicity rodents -Questioning the usefulness of Bartlett's test for homogeneity of variance to introduce a rank test. Journal of Environmental Biology. 20(1):37-48, 1999.
- ④ Kobayashi K., Hagiwara T., Miura D., Ohori K., Takeuchi H., Kanamori M. et al.: A comparison of spontaneous malignant tumors in humans, rats, mice and dogs. Journal of Environmental Biology. 20 (3):189-193, 1999.
- ⑤ 金森雅夫, 鈴木みずえ, 芦川恵子, 小森吉夫: 痴呆性老人のADL, 介護度と痴呆の関連性- Minimum Data Set(MDS)を用いた検討-. 老年期痴呆 12(4): 456-477, 1998.
- ⑥ 甲田勝康, 中村晴信, 宮原時彦, 中村留美子, 戸川可奈子, 岩重健一, 金森雅夫, 竹内宏一: 総コレステロールが高値を示す小学5年生の生活および食習慣 -肥満児との比較-. 小児保健研究 57(6):785-790, 1998.
- ⑦ 中村晴信, 甲田勝康, 宮原時彦, 岩重健一, 金森雅夫, 竹内宏一: 3歳児の気管支喘息と食事および生活状況. 小児保健研究 57(5):710-715, 1998.
- ⑧ 中村留美子, 戸川可奈子, 甲田勝康, 中村晴信, 金森雅夫, 竹内宏一: 同一質問に対する児童本人と保護者の回答の相違 -生活習慣と自覚症状-. 東海学校保健 22(1):7-11, 1998.
- ⑨ 瀬古竹子, 甲田勝康, 竹内宏一: 学校での指導実践を市民運動まで展開させた事例-しぼりタオル健康法を基盤として-. 東海学校保健 22(1):17-19, 1998.
- ⑩ 中村晴信, 甲田勝康, 中村留美子, 戸川可奈子, 金森雅夫, 竹内宏一: 幼児期の生活習慣の変化についての縦断的研究. 小児保健研究 58(6):690-695, 1999.
- ⑪ 新宅幸憲, 白井永男, 野崎泰彰, 乾 道生, 赤塚 勲: 幼児期における重心動揺の検討. 大阪成蹊女子短期大学研究紀要 36: 75-81, 1999.
- ⑫ 新宅幸憲, 白井永男, 野崎泰彰, 乾 道生, 赤塚 勲: 運動発達が足跡・重心動揺に及ぼす影響- 4歳時を対象として-. 大阪成蹊女子短期大学研究紀要 37: 43-51, 2000.
- ⑬ 富田寿人, 杉山康司, 西村千尋, 祝原 豊, 河合 学, 村野直弘, 竹内宏一: 中年男性の呼吸循環系に及ぼすポール・ウォーキングの影響. 静岡理工科大学紀要 8:179-187, 2000.
- ⑭ 吉田隆子, 甲田勝康, 中村晴信, 竹内宏一: 幼児における実践体験型食教育の試行 -味覚識別能, 食習慣との関連性-. 小児保健研究 59(1):65-71, 2000  
インパクトファクターの合計 小計 10年度 [5.081] 11年度 [0.162]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

- ① Sugita M., Izuno T., Kanamori M., Otahara Y., Kasuga H.: Per capita gross national product and summarized odds ratio for epidemiologic studies on the relationship between passive

smoking and lung cancer. Tokai J Exp Clin Med. 23(5):235-240, 1998.

- ② Suzuki M., Yamada K., Ishizu M., Kanamori M.: A Comparison of the rate of falls and risk factors between the community-dwelling elderly aged 65 to 74 and those aged 75 or over. 浜松医科大学紀要一般教育第13:1-11, 1999.
- ③ 鈴木みずえ, 金森雅夫, 石津彩子, 新野直明, 安村誠司, 芳賀博: 在宅高齢者の転倒予防に関する保健活動—静岡県浜松市の取り組み—. 保健の科学40(8):671-678, 1998.
- ④ 鈴木みずえ, 金森雅夫, 山田紀代美, 鈴木勝子, 齊藤一路女, 加納克巳: 在宅高齢者の日常生活動作に対する自己効力感測定の試み—自己効力感と関連する要因の検討—. 看護研究. 32(2):119-128, 1999.
- ⑤ 鈴木みずえ, 金森雅夫, 山田紀代美: 在宅高齢者の転倒恐怖感 (Fear of Falling) とその関連要因に関する研究. 老年精神医学雑誌. 10(6):685-695, 1999.
- ⑥ 鈴木みずえ, 金森雅夫, 芦川恵子, 小森吉夫: 痴呆性老人における骨粗鬆症予防のための生活指導・生活援助に関する研究. Osteoporosis Japan. 7(4):559-566, 1999.
- ⑦ 荒木田美香子, 金森雅夫, 松本友子: 農山村にすむ若者の保健行動と精神健康度の関連性. 日本地域看護学会誌2(1):25-30, 2000.
- ⑧ 中村俊文, 北川陸生, 竹平安則, 山田正美, 内村正幸, 金森雅夫: 総胆管結石のEST長期予後と再発の実態—胆嚢, 胆嚢結石の有無による比較検討—. 胆と膵21(5):371-374, 2000.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

- ① Kakamu S., Miura D., Kitajima S., Kobayashi K., Takeuchi H., Kanamori M. et al.: Comparative studies on the effects of administration by feeding and gavage, on survival rate, accidental death rate and final body weight, surveyed in carcinogenicity studies of National Toxicology Program, U.S.A. Journal of Environmental Biology.20(2):163-165, 1999.
- ② Yanagisawa K., Iwasaki N., Sanaka M., Minei S., Kanamori M., Omori Y.: Polymorphism of the beta3-adrenergic receptor gene and weight gain in pregnant diabetic women. Diabetes Research & Clinical Practice. 44(1):41-47, 1999.
- ③ 小楠和典, 菊本智之, 臼井直樹, 木宮敬信, 富田寿人, 宮原時彦 他: 大学生の保健行動と健康管理に関する研究 -本学1・2年生を対象として-. 経営情報学部論集 (浜松大学紀要) 11(2):439-451, 1998.
- ④ 亀山(松岡)良子, 白木まさ子, 竹内宏一: 女子短大生における健康志向食品の利用状況と生活行動との関連性について. 学校保健研究 40(2):168-181,1998.
- ⑤ 河 相吉, 甲田勝康, 田中敬正: アシアロ糖蛋白受容体活性と肝細胞増殖因子 -TAE後の臨床成績と動物モデルによる検討-. 癌と化療 25(9):1352-1354, 1998.
- ⑥ 野崎泰彰, 新宅幸憲, 山形 修, 乾 道生, 赤塚 勲: 幼児期における足蹠と運動能力について (第5報) -4歳時を対象として-.大阪成蹊女子短期大学研究紀要 35: 19-26, 1998.
- ⑦ 青木重久, 三井忠夫, 吉川和宏, 甲田勝康, 岩重健一, 竹内宏一: 慢性関節リウマチにおける腸内細菌感作の実験・臨床的研究 -とくに腸内細菌叢の変動と断食療法の影響について. 中部リウマチ 30(1):40-41, 1999.

インパクトファクターの合計 小計 10年度 [0] 11年度 [0.752]

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの)

## (2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- ① 金森雅夫，小林公子，浜口秀夫，近藤喜代太郎：老年期痴呆の危険因子とアポプロテイン E多型のリスクに関する人種差. 人類学雑誌. 106(2):174-175, 1999
- ② 金森雅夫，松本友子，王友潔，中村晴信，甲田勝康，中村留美子，竹内宏一：10-13歳における身長・体重の縦断調査. Auxology記録集. 10:111-113, 1999.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

- ① 鈴木みずえ，金森雅夫，鈴木勝子，新野直明，安村誠司，芳賀 博 他：高齢者の転倒・骨折予防のための健康づくり活動に関する研究—地域における組織的な健康活動，健康教育の開発と評価—。(財) 明治生命厚生事業団第4回健康文化研究助成論文集52-61, 1998.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

- ① 岩崎直子，植田太郎，金森雅夫，大森安恵： $\beta$ 3AR遺伝子ミスセンス変異とNIDDMの病態との関連についての検討. 分子糖尿病学8, 1-5: 1998.

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

## (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- ① 金森雅夫：関連解析 (Association study). Diabetes Frontier. 209-214: 1998.
- ② 甲田勝康：学校における生活習慣病予防. 治療 80(5):1784-1785, 1998.
- ③ 金森雅夫：21世紀におけるWHO戦略—神経関連疾患を中心として—, 医療体育学会誌. 18(1):2-7, 1999.
- ④ 金森雅夫，荒木田美香子，松本友子：青年期男子の健康づくり 特に農山村地域での健康教育のあり方を中心に. 生活教育44(4):28-31, 2000.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

- ① 鈴木みずえ，金森雅夫：老人施設における転倒・骨折予防のための生活指導・生活援助. 骨・関節・靭帯13(7):831-839, 2000.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- ① 竹内宏一：学校保健，新簡明衛生公衆衛生 第3版，南山堂237-250, 1998.
- ② 竹内宏一：学校保健用語事典 改訂増補版，東山書院1998.
- ③ 竹内宏一：医学生のための進路ナビ，日本医事新報社1999.
- ④ 金森雅夫：パーキンソン病，疫学ハンドブック重要疾患の疫学と予防，日本疫学会編 南江堂245-248, 1998.
- ⑤ 金森雅夫：田中平三 編 栄養・健康科学シリーズ，公衆衛生学 改訂第3版，南江堂：75-90, 2000.
- ⑥ 小楠和典：身体運動の生理，1身体運動のためのエネルギー，身体運動文化学会（編）身体教育のアスペクト 道和書院 188-195, 1998.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

#### (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- ① Kanamori M, Suzuki M; A longitudinal research on aging change in blood pressure among the healthy elderly in Japan. Proceedings of the International workshop on health indicator development toward the 21st century, (ed National Institute of Public Health, Japan, Korea Institute for Health and Social Affairs, Korea,) Sponsered by Japan International Science and Technology Exchange Center: 201-203, 1999
- ② 金森雅夫, 鈴木みずえ, 竹内宏一, 甲田勝康, 岩重健一, 新野直明 他：在宅高齢者の転倒予防に関する縦断的研究，厚生省厚生科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）平成9年度研究報告Vol.5長期縦断疫学（主任研究者下方浩史），178-182, 1998.
- ③ 甲田勝康, 中村美詠子, 鈴木いずみ, 内藤純代, 渡辺訓子, 吹野 治 他：平成8年 静岡県脳卒中登録評価等事業報告書，静岡県健康福祉部長寿社会課 静岡県総合健康センター 1998.

- ④ 甲田勝康, 白木まさ子, 竹内宏一, 秋定千英美, 吹野 治, 大石邦枝, 金森雅夫: 静岡県舞阪町における漁業従事者の健康および生活状況 -海産物(しらす)の健康影響- 静岡県総合健康センター 1998.
- ⑤ 竹内宏一, 中村留美子, 戸川可奈子, 甲田勝康, 中村晴信, 坪井宏仁: 肥満児に対する生活指導後の変化 -分担研究: 小児期からの成人病予防に関する研究- 厚生省心身障害研究 小児期からの総合的な健康づくりに関する研究 平成9年度報告書78-84, 1998.
- ⑥ 金森雅夫, 鈴木みずえ, 小山田恵, 桜井則彰, 桜井末男: 高齢者の老化に関連した健康障害とライフスタイルに関する縦断的研究. 平成10年度厚生省厚生科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業) 老化の多施設共同縦断疫学調査に関する研究研究報告書(主任研究者下方浩史). 12-37, 1999.
- ⑦ 甲田勝康, 中村晴信, 竹内宏一, 吹野 治, 三輪真知子: 修善寺町における脳卒中予防対策事業支援調査研究 -50歳代の健康状態の特徴- 静岡県総合健康センター 1999.
- ⑧ 甲田勝康, 中村美詠子, 伊東嘉津美, 小松治揮, 山崎晴美, 吹野 治 他: 平成9年 静岡県脳卒中登録評価等事業報告書. 静岡県健康福祉部長寿社会課 静岡県総合健康センター 1999.
- ⑨ 竹内宏一: 事後指導の検討. 子ども家庭総合研究事業 平成11年度厚生科学研究 報告書(第3/6) 255-256, 1999.
- ⑩ 石塚和重: 上田法における評価治療手技の科学性の追及について. 理学療法学 25(4): 209-213, 1998.
- ⑪ 石塚和重: 身体障害者スポーツに理学療法士としてどうかかわるか. 理学療法ジャーナル 32(6): 393-398, 1998.
- ⑫ 小林克己: 動物試験から得られる定量データに対する適切な統計処理法の選択. 東海畜産学会報 9(1)1-6, 1998.
- ⑬ 小林克己: なぜ生物統計では帰無仮説と5%水準を採用するのか?-両側検定と片側検定の違い-検定結果をどう理解すべきか?. 東海畜産学会報 10(1)3-6, 1999.
- ⑭ 白木まさ子, 金森雅夫, 浦野哲盟, 荒木田美香子, 鈴木みずえ: 食事組成とストレス反応との関連性について-運動を負荷した場合-, 静岡県立大学短期大学部特別研究報告書(平成9・10年度). 249-257: 1999.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

- ① 鈴木みずえ, 内村直美, 金森雅夫: 転倒後症候群, (Post-fall Syndrome) に関する研究. 第44回社会厚生事業助成医学研究報告集 千代田生命健康開発事業団. 70-71, 1999.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

- ① 吉野貴順, 玉木啓一, 富田寿人, 星川秀利, 加藤和彦, 石原啓次 他: ショートトラック競技選手の「ラップタイム-乳酸関係」に及ぼす滑走番手の影響. 平成9年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 No.Ⅱ 競技種目別競技力向上に関する研究-第22報-, No.21, スケ

ート, 251-256, 1998.

- ② 服部 坦, 吹野 治, 三輪真知子, 中村敏雄, 岩崎祐子, 久保田晃生, 竹内宏一: 静岡方式による健康度の評価基準に関する研究-健康指標の総合化について-. 静岡県総合健康センター 1999.
- ③ 広瀬弘忠, 内野英幸, 蓑輪真澄, 木原正博, 石塚智一, 岩永敏博, 金森雅夫: 日本人の性行動と性意識についての全国確率サンプル・サーベイ実施のための予備調査と分析. 厚生科学研究費補助金エイズ対策研究事業平成10年度報告書「HIV感染症の疫学研究」(主任研究者木原正博). 458-549, 1999.
- ④ 吉野貴順, 玉木啓一, 富田寿人, 星川秀利, 加藤和彦, 石原啓次 他: ショートトラック競技選手の体力目標値および体力評価基準の再検討-ソルトレーク・オリンピックでのメダル獲得に向けて-. 平成10年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 No. II 競技種目別競技力向上に関する研究-第23報-, No.17, スケート, 207-214, 1999.
- ⑤ 久保田照雄, 渡部道明, 折原 伸, 簗原照昌, 雑賀俊夫, 竹内宏一, 吹野 治: 肝がん及び肝疾患死亡とその関連要因研究. 静岡県総合健康センター 2000.
- ⑥ 林 敬, 夏目典子, 安間清海, 古川五百子, 高木陽子, 田辺直規, 金森雅夫: 北遠地域の若者の生活習慣病に関する意識及び実態調査報告書. 静岡県北遠健康福祉センター, 浜松医科大学北遠地域若者健調査班. 2000.
- ⑦ 杉井和美, 小嶋由美, 貝瀬隆一, 近藤昌子, 金森雅夫: 平成11年度健康づくり指導者研修事業健康施策研修(各論)「調査・研究法」研究成果報告書. 静岡県総合健康センター. 2000.

D. 筆頭著者, 共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが, 当該教室に所属する者が含まれるもの

#### (6) 国際学会発表

- ① Tuboi H, Kawamura N., Miyahara T., Kagiwada K., Takeuchi H., Fukino O. Psychological suppression and natural killer cell activity in elderly women. 15th World Congress of Psychosomatic Medicine. 1999.4.17.

## 4 特許等の出願状況

	平成10年度	平成11年度
特許取得数(出願中含む)	0件	0件

[平成10年度]

[平成11年度]

## 5 医学研究費取得状況

	平成10年度	平成11年度
文部省科学研究費	0件 ( 万円)	1件 (1000万円)
厚生省科学研究費	2件 ( 170万円)	2件 ( 200万円)
他政府機関による研究助成	0件 ( 万円)	0件 ( 万円)
財団助成金	0件 ( 万円)	0件 ( 万円)
受託研究または共同研究	1件 ( 500万円)	0件 ( 万円)
奨学寄附金その他 (民間より)	0件 ( 万円)	0件 ( 万円)

[平成10年度]

(1) 文部省科学研究費

(2) 厚生省科学研究費

竹内宏一(分担者) 小児期からの総合的な健康づくりに関する研究 30万(継続) 代表者 東京女子医大附属第二病院小児科教授 村田光範

金森雅夫(分担者) 長期縦断疫学 140万(継続) 代表者 名古屋大学医学部教授 葛谷文男

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

竹内宏一(代表者) 受託研究「群馬県赤堀町における健康増進事業」500万(新規) 委託者 群馬県赤堀町

[平成11年度]

(1) 文部省科学研究費

(2) 厚生省科学研究費

竹内宏一(分担者) 小児期からの総合的な健康づくりに関する研究 30万(継続) 代表者 東京女子医大附属第二病院小児科教授 村田光範

金森雅夫(分担者) 百寿者の多面的検討と国際比較 170万(新規) 代表者 慶応義塾大学医学部講師 広瀬信義

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究



## 6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

[平成10年度]

[平成11年度]

金森雅夫（分担者） 創成的基盤研究費（新プログラム方式）「糖尿病の遺伝素因の総合的解析（10NP0201）」1000万円（新規）代表者 千葉大学大学院医学研究科教授 清野進

## 7 学会活動

	平成10年度	平成11年度
招待講演回数	1件	1件
国際・国内シンポジウム発表数	3件	1件
学会座長回数	7件	6件
学会開催回数	0件	0件
学会役員等回数	15件	15件

[平成10年度]

### (1) 学会における特別講演・招待講演

金森雅夫(1998)：WHO東京会議と神経予防，第11回日本医育体育学会，11月，浜松市

### (2) 国際・国内シンポジウム発表

- ① 竹内宏一（1998）：第5回日本公衆衛生学会シンポジウム，1998年，10月，岐阜
- ② Masao kanamori(1998) Genetic Analysis and Epidemiology: The Epidemiological Risk Assessment of Genetic Factors and Candidate Genes for Common Diseases, International Symposium on New Horizon in the Pathogenesis of Diabetes Mellitus, November, Kyoto
- ③ 金森雅夫(1998)；老年期痴呆の危険因子とアポプロテインE多型のリスクに関する人種差, 11月，つくば

### (3) 座長をした学会名

- ① 竹内宏一 第68回日本衛生学会，1998年10月，岡山
- ② 竹内宏一 平成10年度日本産業衛生学会東海地方学会，1998年，11月，静岡
- ③ 竹内宏一 第44回東海公衆衛生学会，1998年7月，浜松
- ④ 竹内宏一 第41回東海学校保健学会，1998年9月，刈谷
- ⑤ 竹内宏一 第45回日本学校保健学会，1998年11月，筑波
- ⑥ 金森雅夫 第44回東海公衆衛生学会，1998年7月，浜松
- ⑦ 金森雅夫 第71回日本産業衛生学会，1998年5月，盛岡

### (4) 主催する学会名

### (5) 役職についている学会名とその役職

- ① 竹内宏一 日本学校保健学会理事
- ② 竹内宏一 日本公衆衛生学会評議員
- ③ 竹内宏一 日本衛生学会評議員
- ④ 竹内宏一 日本民族衛生学会評議員
- ⑤ 竹内宏一 日本産業衛生学会評議員
- ⑥ 竹内宏一 日本疫学会評議員
- ⑦ 竹内宏一 日本健康教育学会評議員
- ⑧ 竹内宏一 日本産業精神保健学会評議員
- ⑨ 竹内宏一 東海公衆衛生学会理事
- ⑩ 竹内宏一 産業衛生学会東海地方会理事
- ⑪ 竹内宏一 東海学校保健学会理事
- ⑫ 金森雅夫 日本疫学会 評議員
- ⑬ 金森雅夫 日本衛生学会 評議員
- ⑭ 金森雅夫 東海公衆衛生学会 評議員
- ⑮ 金森雅夫 東海学校保健学会 評議員

[平成11年度]

(1) 学会における特別講演・招待講演

金森雅夫(1999)：21世紀におけるWHO戦略, 第15回東海北陸理学療法学会. 11月, 浜松

(2) 国際・国内シンポジウム発表

Masao kanamori(1999): Longitudinal Research on Aging Change in Blood Pressure. International Workshop on Health Indicator Development toward the 21st Century . Sponsored by WHO and Korea Institute for Health and Social Affairs(KIHASA), March ,Seoul, Korea

(3) 座長をした学会名

- ① 竹内宏一 第69回日本衛生学会1999年4月, 千葉
- ② 竹内宏一 第42回東海学校保健学会, 1999年9月, 鈴鹿
- ③ 竹内宏一 第46回日本学校保健学会 1999年10月, 名古屋
- ④ 金森雅夫 第46回日本学校保健学会 1999年10月, 名古屋
- ⑤ 金森雅夫 平成11年度日本産業衛生学会東海地方会, 1999年7月, 名古屋
- ⑥ 金森雅夫 第58回日本公衆衛生学会, 1999年11月, 別府

(4) 主催する学会名

(5) 役職についている学会名とその役職

- ① 竹内宏一 日本学校保健学会理事
- ② 竹内宏一 日本公衆衛生学会評議員

- ③ 竹内宏一 日本衛生学会評議員
- ④ 竹内宏一 日本民族衛生学会評議員
- ⑤ 竹内宏一 日本産業衛生学会評議員
- ⑥ 竹内宏一 日本疫学会評議員
- ⑦ 竹内宏一 日本健康教育学会評議員
- ⑧ 竹内宏一 日本産業精神保健学会評議員
- ⑨ 竹内宏一 東海公衆衛生学会理事
- ⑩ 竹内宏一 産業衛生学会東海地方会理事
- ⑪ 竹内宏一 東海学校保健学会理事
- ⑫ 金森雅夫 日本疫学会 評議員
- ⑬ 金森雅夫 日本衛生学会 評議員
- ⑭ 金森雅夫 東海公衆衛生学会 評議員
- ⑮ 金森雅夫 東海学校保健学会 評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	平成10年度	平成11年度
学術雑誌編集数	1件	0件

[平成10年度]

Masao Kanamori Journal of Epidemiology Editorial Board

[平成11年度]

## 9 共同研究の実施状況

	平成10年度	平成11年度
国際共同研究	0件	0件
国内共同研究	0件	0件
学内共同研究	0件	0件

[平成10年度]

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

(3) 学内共同研究

[平成11年度]

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

(3) 学内共同研究

## 10 産学共同研究

	平成10年度	平成11年度
産学共同研究	0件	0件

[平成10年度]

[平成11年度]

## 11 受賞(学会賞等)

[平成10年度]

[平成11年度]

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 小児期からの生活習慣病予防

静岡県I市における小学生、中学生を対象として、肥満や血清脂質の課題に取り組んでいる。アポB/アポA-1比は、動脈硬化の指標とされているが、男女とも肥満群において高値を示した。肥満のトラッキングはとくに男子で強く見られた。

一方、コレステロール高値を示す子ども達について分析した結果、生活習慣よりも、身長や一年間の身長の伸びの方が強く相関することが判明した。よってコレステロール高値を示す子どもの指導は、安易な食事制限等の保健指導を一律に行うことは危険であり、対象とする子どもの年齢や発育状況、肥満度、HDLコレステロール値、A1(動脈硬化指数)、さらに十分な生活状況の把握のもとに行う必要がある。

(竹内宏一、甲田勝康、中村晴信)

### 労働者の生活習慣病予防

単身赴任労働者についての健康が社会問題になっている。しかし、我々は20歳代未婚単身労働者の方が問題なのではないかと、両群について調査を実施した。その結果、未婚単身者の方に問題が多く、朝食欠食、外食が多い、野菜不足、魚不足、睡眠時間が短いとするものが多かった。20歳代未婚単身者についても留意して保健指導すべきことを提起した。

つぎに、心電図所見としての右脚ブロックは、一般的に予後がよいされるが、これにST上昇を伴うBrugadaタイプが、突発性心室頻拍や心室細動など致死的不整脈に発展する危険性が指摘されている。そこで、某健診機関受診者65,148名について調査した。その結果、右脚ブロックを有する群における高血圧と肥満のリスクファクターを持つ有所見率は、全対象と比べて有意差はなかったが、高脂血症については、有意に多かった。右脚ブロック群におけるBrugadaタイプの頻

度は、20歳代6.5%、30歳代1.5%、40歳代2.1%、50歳代3.2%、60歳代1.9%であった。

(竹内宏一, 甲田勝康, 中村晴信)

#### 地域における生活習慣病予防

静岡県M町は、漁港を有しているから漁業関係者が多い。漁業従事者の生活習慣は、塩分や飲酒量も多いと一般的にいられている。しかるに、県下の市町村別にみたM町の健康水準をみると、脳血管疾患による標準化死亡比は県内で最も低く、心疾患や悪性新生物でも良い傾向を示した。そこで、漁業従事者を主に調査を実施した。その結果、漁業従事者は、塩分摂取などあまり気を使っておらず、飲酒も多く、健康のための運動習慣を心がけている者は少なかったが、しらす等の魚類の摂取頻度が多く、身体活動量も多いことなど動脈硬化指数も低く、動脈硬化予防の点ではさほど問題ないと推察された。

一方、従来の高血圧予防は、減塩指導が主であるが、我々はA町において、減塩を強調せず、野菜摂取と適度の運動を主に指導した結果、注目すべき良い結果を得た。

(竹内宏一, 甲田勝康, 中村晴信)

#### 成長および老化の縦断的解析及び生活習慣病の家族集積性の研究

- a) 膵島アミロイド沈着で糖尿病の発症、進展に関与するとされるアミリンのS20Gはアジア人に特異的に認められる。このS20Gの変異についての成人2型糖尿病患者検索した結果、糖尿病群で有意に高値を示し、この変異が糖尿病の遺伝素因となる可能性を示唆した。
- b) 家族性胃癌について遺伝様式を推定した結果、未分化癌においてメンデル遺伝をみとめ、性差があることが明らかとなった。いずれも論文準備中。

(金森雅夫)

#### 薬剤性肝障害におよぼす低エネルギー食の影響

thioacetamide肝障害ratにおいて、diet-restricted groupはad libitum feeding groupに比べ、survival rateが高く、PCNA studyでtissue repair responseの増大がみられるという報告がなされている。このメカニズムの一つにHGFの関与が推察されるが、fasting ratにおいて行った実験では、血中HGFの上昇が確認できなかったにもかかわらず、単位肝重量あたりの<sup>99m</sup>Tc-galactosyl-human serum albumin (<sup>99m</sup>Tc-GSA) の取り込みは増大していた。今後、DRおよびFastingが薬剤性肝障害におよぼす影響についてさらに<sup>99m</sup>Tc-GSAを用いて検討し、脾臓、肝臓のHGFおよびHGF mRNAの定量からそのメカニズムについて検討する。

(甲田勝康, 中村晴信, 竹内宏一, 河相吉, 澤田敏<sup>1)</sup> 関西医科大学

#### 接触性皮炎マウスにおける絶食の抗炎症作用

食事制限が老化に影響を与えることは種々報告されている。今回我々は、絶食のアレルギーに対する効果を検討するため、接触性皮炎に対する抗炎症効果を動物疾患モデルを用い検討した。マウスにdinitrofluorobenzene (DNFB)を皮膚感作および惹起させたところ、24時間および48時間絶食群のマウスは自由摂取群に比べ、炎症にともなう浮腫や、リンパ球の浸潤等が著明に軽減していた。今後は、この炎症抑制のメカニズムについて、更に検討を加える予定である。

(中村晴信, 甲田勝康, 范文英, 竹内宏一)

エネルギー制限がアトピー性皮膚炎に及ぼす影響

我々はこれまでにエネルギー制限がアトピー性皮膚炎 (AD) に及ぼす影響について報告しているが, ヒトを用いた研究では生活環境その他をコントロールしその影響について判断することは困難である。NC/NgaマウスはADの疾病モデル動物として紹介されているが, これまでにNC/Ngaマウスにエネルギー制限を行いその炎症抑制効果を確認した。現在そのメカニズムについて検討中である。

(范文英, 甲田勝康, 中村晴信, 竹内宏一)

### 13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

### 14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

金森雅夫が浜松にきて3年を経過し, 情報システムの整備に時間がかかったが, multipoint analysisのデータベースフレームなど遺伝数理統計情報解析法を構築し, 遺伝と環境因子との相互作用の解析法の構築の準備ができた。(金森雅夫)

### 15 新聞, 雑誌等による報道

- 1 静岡新聞. H10. 6.30 漁業従事者の健康状態について
- 2 中日新聞. H10.11.12 アトピー性皮膚炎患者とエネルギー制限食について
- 3 静岡新聞. H11. 1. 6 小児の血清脂質及び肥満について
- 4 静岡新聞. H11. 4. 7 「喘息と生活」分析
- 5 日経ヘルス. H11.9月号 制限食 (エネルギー制限) が生体に及ぼす影響について
- 6 中日新聞. 平成11年10月24日 90歳おめでとうー掛川で卒寿式ー